

投資事業評価調書（新規）

部課室名	農林水産部農林水産局 農村環境課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 青野 正 (小川 至紀)	内線	3931 (3946)
------	---------------------	---------------------	--------------------	----	----------------

事業種目	中山間地域振興対策	事業名	事業区間	総事業費	約3億円
		新山村振興等農林漁業特別対策事業	波賀地区	内用地補償費	—
所在地			事業採択年度	着工予定年度	完成予定年度
波賀町安賀、東山地内ほか			H15	H15	H18
事業の目的			事業内容		
<p>中山間地域の特性を踏まえつつ、地域農業の振興や都市との交流、定住条件の整備を総合的に振興することにより、活力ある地域づくりを推進する。特に本地区は、今後一層の過疎化・高齢化が進む現状への対応が課題となっており、農業振興や文化活動等を通じ、元気な高齢者が生きがいに満ち、安心して暮らせる農山村づくりを推進するとともに、都市との交流のさらなる拡大を図る。</p> <p style="text-align: center;">事業主体：波賀町ほか</p>			<p>高齢者等活動・生活支援促進施設(高齢者生きがい発揮施設) 1棟 700㎡ (国50% 県4% 町46%) 農林水産物直売施設ほか 2棟 200㎡ (国50% 県7% 町43%) 地域資源活用総合交流促進施設(手作り体験・地域食材提供施設) 1棟 300㎡ (国50% 県4% 町46%) 獣害防止柵 L=17km (国55% 県6% 町30% その他9%)</p>		
評価視点		評価結果の説明			
(1)必要性		<p>波賀町の高齢化率は28%(H13.2.1現在)と高く、今後一層の過疎化・高齢化の進展が懸念される。そのため、町では旧役場跡地の有効利用の検討と併せ、高齢者の福祉対策とともに元気な高齢者が農業指導や文化の伝承活動等を通じ生きがいに満ちた生活を送ることにより、地域に誇りを持ち永続して安心して暮らせるための場の提供が必要と判断した。「町振興計画」においてもその整備が位置づけられており、必要な措置である。</p> <p>一方、本町は、これまで道の駅「みなみ波賀特産館」「フォレストステーション波賀」等の交流施設を拠点に、都市との交流を積極的に進めてきた結果、交流人口が年間約30万人にまでなり、雇用の創出等において大きく寄与している。今後とも、これら拠点施設が多様な都市住民のニーズに対応し、さらなる交流の拡大と発展につなげるためには、直売施設・体験施設等を設置し、都市住民と地域住民とがよりふれあえる場の整備が必要である。</p> <p>また、近年、野生鹿等による農作物の被害が増えており、このまま放置するとさらなる農家の生産意欲の低下と耕作放棄地の増加を招きかねないため、獣害防止柵の設置は必要である。</p> <p>以上の整備により、地域住民の創意と工夫による地域づくりが展開されるとともに、魅力ある農山村地域の創造が期待される。</p>			
(2)有効性・効率性		<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施により下記の効果が期待できる。 <li style="padding-left: 20px;">新たな雇用創出。(8名雇用) 農産物販売等による所得増(0.5%増)。 <li style="padding-left: 20px;">交流人口の増加。(年間38,000人増加) ・投資効率 1.44 ・用地等地域の協力体制も整っている。 			
(3)環境適合性		<p>資源の有効利用と循環を図るため、事業で実施する施設については、極力木造とし、内装についても木質化に努める。また、施設の周辺は緑化に努めるとともに、景観等へも配慮する。</p>			
(4)優先性		<p>高齢者対策については、厚生労働省所管補助事業(H15年度着工)との連携により、福祉と生きがい発揮の両機能を併せ持つ拠点機能としての整備を予定している。また、獣害対策は、緊急の課題であるため、早期の実施が必要であり、H15年度からの実施が必要である。</p>			